

最新レーザー治療機<ホルミウム・ヤグレーザー>を導入しました！

～メスを使わない最先端のレーザー手術が可能に～

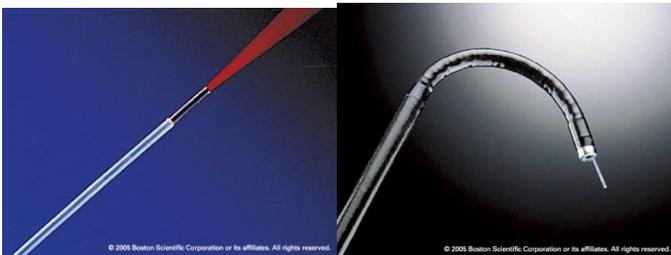
泌尿器科 医長 古谷洋介

レーザーを使用することにより尿路結石や前立腺肥大症の内視鏡手術を低侵襲かつ効果的に行う事が当院でできるようになりました！

*^{ていしんしゅう}低侵襲手術とは：患者様の負担（出血・痛みなど）が少なく、早期回復が見込める手術

“ホルミウムヤグレーザーとは”

ホルミウムヤグレーザーは医療用のレーザーで、水への吸収率が高く組織到達深度（人間の身体に影響を与える深さ）はわずか 0.4mm で、レーザーファイバーの先端を組織から 5.0mm 離すと組織に影響を与えません。泌尿器科の内視鏡手術において尿道・膀胱・尿管内が水で満たされた状態では正常な組織に影響を及ぼすことなく照射できます。2.0mm 以下の距離で使用すると組織の切除とともに止血を行う事ができます。また尿路結石への破砕効果も非常に高く、ホルミウムヤグレーザーは主に泌尿器科領域で尿路結石や前立腺肥大症の治療に使われています。



“尿路結石の治療”

ホルミウム・ヤグレーザー(バーサパルスセレクト 80W)が導入され経尿道的尿管結石破砕術(TUL)の治療が当院で、できるようになりました。TUL は、細径の尿管鏡という特殊な内視鏡を尿道から挿入し、内視鏡の先端を尿管あるいは腎盂内の結石まで導き、結石を直接観察しながら破砕装置で破砕し除去する手術です。レーザーは組織への熱侵襲が極めて少ないため治療部位以外への損傷を抑える事ができ、硬い結石でも破砕効果が高いため治療効果も高い治療です。また、尿管に挿入する内視鏡がさらに細くなり、最新式の柔らかい内視鏡とレーザーを使うことで、尿管結石だけでなく以前は届かなかった腎臓内までの上部尿路までの治療が安全にできるようになりました。以上のようにレーザーを使用したT

ULは現在、尿路結石治療において必要不可欠な手技となっております。当院では、ホルミウム・ヤグレーザーの導入により、入院期間や完治までの期間も短く、早期の社会復帰が可能となりました。

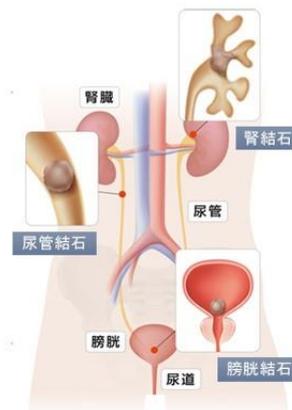
尿路結石の主な症状

結石が存在する場所により腎結石、尿管結石、膀胱結石などがあります。

尿管結石の症状は、突如発生するわき腹や背中、腰の非常に激しい痛みです。これを疝痛（せんつう）発作といいます。

また、血尿も典型的な症状です。血尿の多くは粘膜と結石がこすれるために生じます。

腎結石自体は、無症状である事が多いのですが、腎結石が尿管内に落下することで、強い痛みの症状が発生します。膀胱結石は排尿障害がある方で発生することがほとんどで、残尿感や頻尿、血尿などの症状を起こします。



“前立腺肥大症の治療”

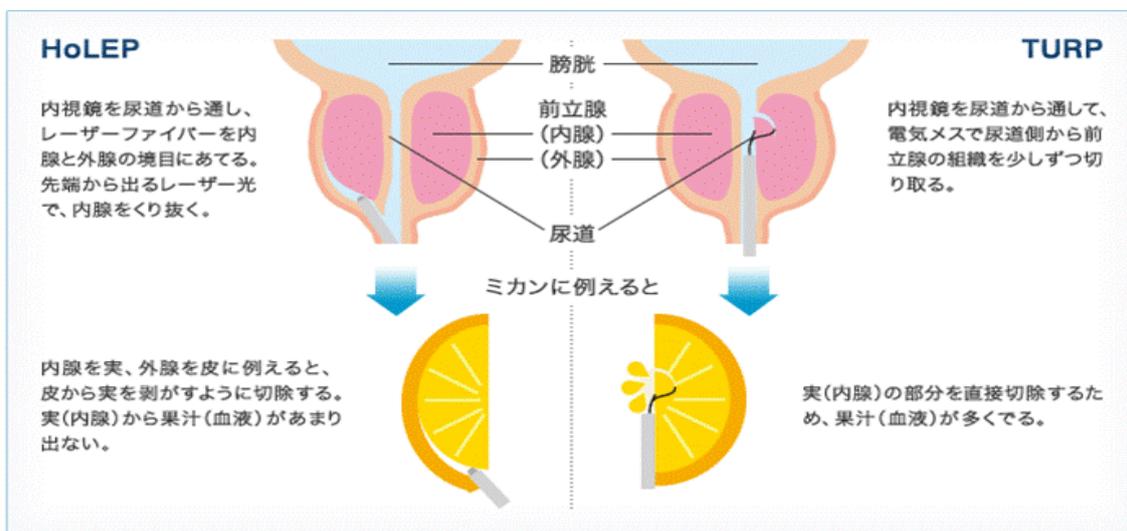
前立腺肥大症に対するレーザーを使用した内視鏡手術である“HoLEP”(ホーレップ)=経尿道的ホルミウムレーザー前立腺核出術とは、内視鏡とレーザー光を利用した手術であり、出血や痛みを少なくし患者さんに負担の少ない手術が可能になりました。従来、前立腺肥大症における標準的な治療法は、経尿道的前立腺切除術(TUR-P)でした。TUR-Pとは、内視鏡手術器を尿道より挿入し、尿道の閉塞原因である前立腺の内腺(腺腫)を電気メスで削り取るものです。また非常に大きな前立腺肥大症に対しては下腹部を切開して開腹手術により前立腺被膜下摘除術が行われることがあります。

“HoLEP (ホーレップ)”という最新の手術方法は、内視鏡を尿道から前立腺に通し、レーザーファイバーと呼ばれる機器を前立腺の内側(内腺)と外側(外腺)の境目に挿入して行います。このレーザーファイバーでホルミウム・ヤグレーザーという種類のレーザー光を照射し、肥大した内腺(腺腫)を外腺から剥がしてくり抜きます(核出)。腺腫を核出し膀胱内に移動させた後、別の機器で腺腫を細切・吸引しながら摘出します。この“HoLEP”による治療法は、①TUR-Pに比べて出血量が少なく入院期間も短縮できる。②前立腺肥大症の再発の可能性が極めて少ない。③従来は開腹手術を必要とした大きな前立腺肥大症も内視鏡で治療可能、などの利点があります。

☆前立腺肥大症とは

50歳以上の男性に多く、60歳代では5割以上、70歳代では約7割の方が罹患している

といわれています。前立腺の特に内側の内腺が肥大することで尿の通り道が狭くなったり、膀胱を刺激して、尿が出にくい、残尿感、尿の回数が多いなどの症状を起こします。



☆詳しくは当院の泌尿器科医師・スタッフまでお気軽にお尋ねください。